

子どもの発達や学びのプロセス

【健康な心と体】



幼稚園生活の中で、**充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。**

5歳後半



充実感をもって自分のやりたいことに向かって、繰り返し挑戦したり、諸感覚を働かせ体を思い切り使って活動したりする。

心と体を十分に働かせ、遊びや生活に見通しをもって自立的に行動し、自ら健康で安全な生活を作り出す。

小学校教育

次の活動を考えて準備をするなどの見通しをもって行動したり、安全に気を付けて登下校しようとしたりする。

他の児童と一緒に楽しく過ごしたり、様々な場面において伸び伸びと行動したりする。



主体的な活動を促す環境や授業の工夫が必要です。子どもが自ら安全で健康な生活を創り出すことができるような環境や援助を積み重ねます。

| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|-------------------------------------|---|--------------------------------|---|---|---|--|----|
| のびのび のびのび動かし、はう、座る、立つ、歩く。 | 動くって楽しい! 走る、登る、跳ぶ、蹴る、投げる、くぐる。 | 自分でできるよ 食事、衣服の着脱、排泄。 | 動きを調整しよう やりたいことに向かって、動きを調整、何度も挑戦しようとする。 | 見通しをもって 遊びや生活に見通しをもつ。安全や健康に気付く。 | みんなで運動遊び 友だちと一緒に運動遊びや学校生活を伸び伸びと楽しむ。 | 時計を意識 時間を意識して行動。安全や健康に気を付ける。 | |
| 気持ちいい 体を清潔に、気持ちいい環境を感じる。 | | | | | | | |

健康な心と体は、他者との信頼関係の下で、自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組む中で育まれていきます。

子どもたちの育ちは0歳からつながっています。幼保小の先生が互いに保育や授業を見たときに、この姿はこうしたつながりの中にあるのだと理解できるとよいのではないかと思います、子どもの具体的な姿を示しました。これらはあくまでも目安であり、この時期にこうでなければならないということではありません。

【協同性】



友達と関わる中で、**互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。**

5歳後半



目的の実現に向けて、考えたことを相手に分かるように伝えながら、工夫したり、協力したりし、充実感をもって幼児同士でやり遂げるようになる。

小学校教育

目的に向かって自分の力を発揮しながら友だちと協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組むなど、教師や友だちと協力して生活したり学び合ったりする。



友だちや学級全体で目的をもったり共に活動したりすることで、互いのよさを認め合えるような環境や援助を積み重ねます。

| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|---|-----------------------------------|--|--|---|----|----|----|
| 身近な人にとっこり 身近な人へ微笑んだり、声や動きで応えたりする。 | 一緒にうれしいね 共に過ごす心地よさを感じる。 | 同じことを一緒にやりたい 一緒に活動する楽しさを味わう。 | 力を合わせてやろうよ 目的の実現に向け、考えたことを相手にわかるように伝えたり、工夫・協力したりしてやり遂げようとする。 | 力を合わせるとすごいことができるね 目的に向かって、自分の力を発揮しながら、友だちと伝え合う中で新しい考えを生み出したり、工夫したりし、協力して取り組もうとする。 | | | |
| | 見立て遊びやごっこ遊びを楽しむ。 | 関わりの中で、ぶつかり葛藤する。 | | | | | |

協同性は、教師との信頼関係を基盤に他の幼児との関わりを深め、思いを伝え合ったり試行錯誤したりしながら一緒に活動を展開する楽しさや、共通の目的が実現する喜びを味わう中で育まれていきます。

【道徳性・規範意識の芽生え】

友達と様々な体験を重ねる中で、**してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくらしたり、守ったりするようになる。**

5歳後半



うまくいかないことを乗り越える体験を重ねることを通して人間関係が深まり、友だちや周囲の人の気持ちに触れて、相手の気持ちに共感したり、相手の視点から自分の行動を振り返ったりして、考えながら行動する。

きまりを守る必要性が分かり、友だちと一緒に心地よく生活したり、より遊びを楽しくしたりするために、自分の気持ちを整理し、友だちと折り合いを付けながら、きまりをつくらしたり、守ったりするようになる。

小学校教育

相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする。



自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきます。

【自立心】



身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、**しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。**

5歳後半



様々なことに挑戦し、失敗も繰り返す中で、自分でしなければならないことを自覚するようになる。

難しいことでも自分の力でやってみようとして、考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる体験を通して達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



小学校教育

自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む。



課題を自分のこととして受け止め、意欲的に取り組んだり、自分なりに考えて意見を言ったり、粘り強く取り組んだりする。

やってできた満足感や達成感を味わえるような体験を積み重ねていくことを大切にします。

| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|---------------------------------|--|---|---|---|----|----|----|
| 愛されている 身近な人からの愛着を感じる。 | 一緒に安心 安心感のもと、自分のやりたいことを行い満足する。 | 自分でやりたい、でもやりたくない時もあるんだ やりたいことを主張する。 | 自分でできるよ 自分の力で行うために、考えたり、工夫したりしながら諦めずにやり遂げようとする。 | 自覚して行動できるよ 課題に向かって、意欲的に取り組み、自分なりに考えて粘り強く取り組もうとする。 | | | |
| | | 難しいこともやり遂げた満足感を味わう。 | | | | | |

自立心は、教師との信頼関係を基盤に自己を発揮し、身近な環境に主体的に関わり自分の力で様々な活動に取り組む中で育まれていきます。

| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|---------------------------------------|-------------------------------------|--|--|---|--|----|----|
| 好き楽しい 身近な人の愛情を感じ、自分も愛着を感じる。 | 気持ちいろいろ 自分や他の人の様々な気持ちを知る。 | 友だちはどう考えているのかな 友だちの気持ちを知り、自分の気持ちに折り合いを付けようとする。 | 相手にも思いがある 相手の気持ちに共感したり、自分の行動を振り返ったりして、考えながら行動する。 | 良いこと悪いことがあるんだ ほめられたり、叱られたりしてよいことや悪いことがあることが分かる。 | 自分たちできまりをつくらう きまりの大切さに気付く、きまりをつくらたり守ったりする。 | | |
| | | 自分たちできまりをつくらう | | | | | |

道徳性・規範意識の芽生えは、他の幼児との関わりにおいて、自分の感情や意志を表現しながら、ときには自己主張のぶつかり合いによる葛藤などを通して互いに理解し合う体験を重ねる中で育まれていきます。

「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「保育所保育指針解説」等 参照

子どもの発達や学びのプロセス

【社会生活との関わり】

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



5歳後半

人々との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。
好奇心や探究心が一層高まり、関心のあることについて、より詳しく知りたいと思ったり、より本物らしくしたいと考えて遊びの中で工夫したりする中で、身近にあるものから必要な情報を取り入れるようになる。

小学校教育

相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れたりする。



地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深め、地域への親しみや学びの場を広げていく。

幼児・児童の関心に応じて、地域の身近な人とのふれあいの機会や情報との出会いをつくることを大切にします。

| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|-------------|-------------------------|-----------------------|----|--------------------------------------|----|----|----|
| 家族と | 身近な人と | 地域の人・異年齢の友だちと | | 家族・地域の一員として | | | |
| 身近な人の顔がわかる。 | 身の回りに様々な人がいることに気づき、関わる。 | 近隣の行事や季節の行事に興味や関心をもつ。 | | 家族・地域の一員として役に立つ喜びを実感する。 | | | |
| | | | | | | | |
| | | 調べたことを遊びや生活の中で伝え合う。 | | 体験や本、図鑑、インタビュー、ICT機器等で得た情報を役立てようとする。 | | | |

社会生活との関わりは、保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安心感や、教師との信頼関係を基盤に、学級の幼児との関わりから幼稚園全体へ、さらに地域の人々や出来事との関わりへと、次第に広がりをもっていきます。

【思考力の芽生え】

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



5歳後半

遊びや生活の中で、物の性質や仕組みなどを生かして、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、身近な環境との多様な関わりを楽しむようになる。

友だちの様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

小学校教育

新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わる。



探究心をもって考えたり試したりする経験は、主体的に問題を解決する態度へつながる。

好奇心や探究心を引き出すような環境や支援をすることを大切にします。

| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|-------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|----|--|----|----|----|
| 見たり、聞いたり、触ったり、口に入れたり | これ、何？自分で試そう | この方法は？友だちと試そう | | これまでの経験が使えるかな？ | | | |
| 人やものの存在を音、形、色、手触りで確かめる。 | 何度も試すことで、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。 | 身近にあるものや用具などを使って試したり、考えたり、作ったりする。 | | 見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫するなど多様な活動を通して考えを深めようとする。 | | | |
| | | | | | | | |
| | | 友だちと対話をしながら考える。 | | 自分と異なる考えがあることに気付く。 | | | |

思考力の芽生えは、周囲の環境に好奇心をもって積極的に関わりながら、新たな発見をしたり、もっと面白くなる方法を考えたりする中で育まれていきます。

【自然との関わり・生命尊重】



5歳後半

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとして関わり、大切にすることを覚えるようになる。



好奇心や探究心をもって考えたことを幼児なりの言葉などで表現しながら、身近な事象への関心を高めていく。

継続して関心をもって見たり関わったりするなどを通して、新たな気づき生まれ、次第に自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。



身近な動植物に心を動かされる中で、実感をもって生命の大切さを知り、生きることの素晴らしさの自覚を深めることにつなげます。

小学校教育



動物を飼ったり植物を育てたり、調べたりする活動を通して、生き物の生態等を深く知り、関心をもって学ぶ。

自然の事物や現象について関心をもち、その理解を確かなものにする。

この動きはなんだろう？



| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|----------------|-------------------------|--|--|----|----|----|----|
| 感じる | 触りたい | 育ててみたい | なぜ？どうして？調べよう | | | | |
| 身近な自然や生き物に気付く。 | 身近な自然や生き物に触れてその特徴を確かめる。 | 継続して身近な自然や生き物を見たり、育てたり、飼ったりするなどを通して、新たな気づきを得る。 | 生き物を飼ったり植物を育てたり、調べたりする活動を通して、生き物の生態等を深く知り、関心をもつ。 | | | | |
| | | | | | | | |
| 生き物に興味をもつ。 | 生き物には、命があることを知る。 | 命が失われてしまうと戻らないことに気付く。 | 動植物に親しみを持ち、命を大切にしようとする。 | | | | |

自然との関わり・生命尊重は、身近な自然と触れ合う体験を重ねながら、自然への気づきや動植物に対する親しみを深める中で育まれていきます。

【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】



遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

5歳後半



自分たちの遊びや生活の中で、必要感をもって、物を数えたり、量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだりする。

標識や文字などに関心をもちながらその役割に気付いたり使ったりする。



小学校教育

数学的活動を通してものの形や数などの特徴を捉えていく。また、その名称も学んでいく。

筒の底を写したら…まるになった！



本の使い方や調べ方を知った後、本や資料を活用する。

日常生活の中で数量や図形、標識や文字などに関心をもてるような環境や具体的な体験および活動を大切にします。

| 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 |
|-------------------------|---------------|-------------------------|--|----|------------------------------------|----|----|
| つまんだりつかんだり | 大きいや小さいの！ | いろいろな形、マークがあるね | 使ってみよう | | 使って考えよう | | |
| つまんだり、つかんだりしてものの存在を感じる。 | ものの形や大小を見分ける。 | 日常生活の中で、ものの形や大小、数量を捉える。 | 遊びや生活の中で、必要感をもって、数えたり、量を比べたり、形を組み合わせて遊んだりする。 | | 数のまとまりや図形の構成・要素、事柄や関係に着目して考えようとする。 | | |
| | | | | | | | |
| 語りかけや歌いかけに心地よさを感じる。 | 標識や文字の存在に気付く。 | 言葉が文字の音で構成されていることに気付く。 | 標識や文字には、人に思いなどを伝える役割があることに気付いたり使ったりする。 | | 丁寧に正確に読んだり書いたりする。 | | |

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚は、日常生活の中で、数量や文字等に接しながらその役割に気づき、親しむ体験を通じて育まれていきます。

子どもの発達や学びのプロセス

【言葉による伝え合い】



先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、**豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。**

5歳後半

伝える相手や状況に応じて、言葉の使い方や表現の仕方を変える。

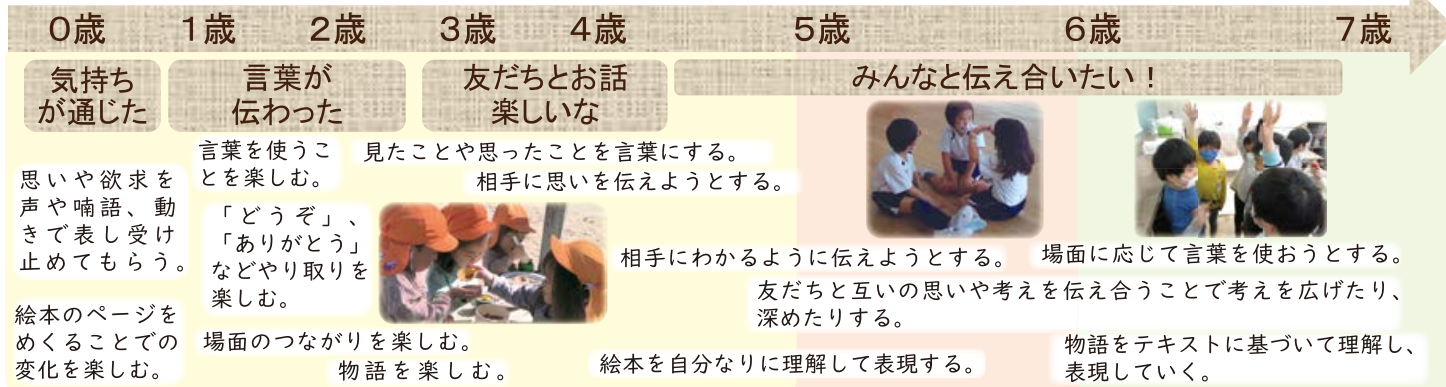
相手に分かるように工夫しながら言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりして理解する。

気軽に言葉を交わすことができる雰囲気の中で、伝えたいような体験をしたり、相手の考えなどを知りたいと思ったりする環境や支援を重ねます。

小学校教育

友だちと互いの思いや考えを伝え合うことで考えを広げたり、深めたりする。

目的や相手の状況などに応じた様々な伝え方や方法を学び、学んだことを活用する。



言葉による伝え合いは、身近な親しい人との関わりや、絵本や物語に親しむ中で、様々な言葉や表現を身に付け、自分が経験したことや考えたことなどを言葉で表現し、相手の話に興味をもって聞くことなどを通して育まれていきます。

【豊かな感性と表現】



心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、**様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。**

5歳後半

身近にある素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを必要なものを選んで表現する。

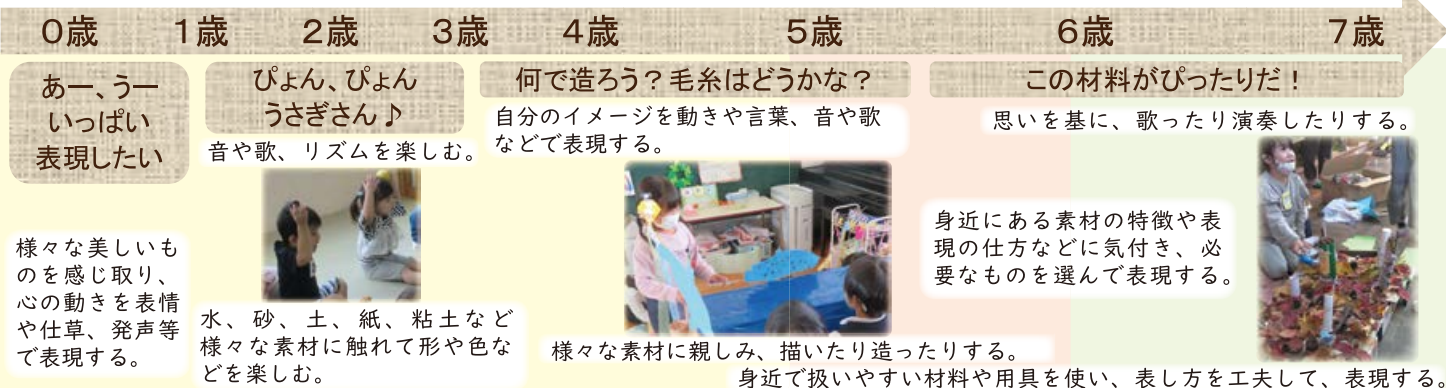
友だちと工夫して想像的な活動をしたり楽しんだりする。

活動の際に、幼児・児童が実現したい思いを大切にします。

小学校教育

いろいろな形や色、触った感じなどを捉え、材料や用具を使い、表し方を工夫して創造的につくったり表したりする。

用具の使い方も発達段階に応じて学ぶ。



豊かな感性と表現は、様々な場面で美しいものや心を動かす出来事に触れてイメージを豊かにし、表現に関わる経験や楽しさを積み重ねながら育まれていきます。

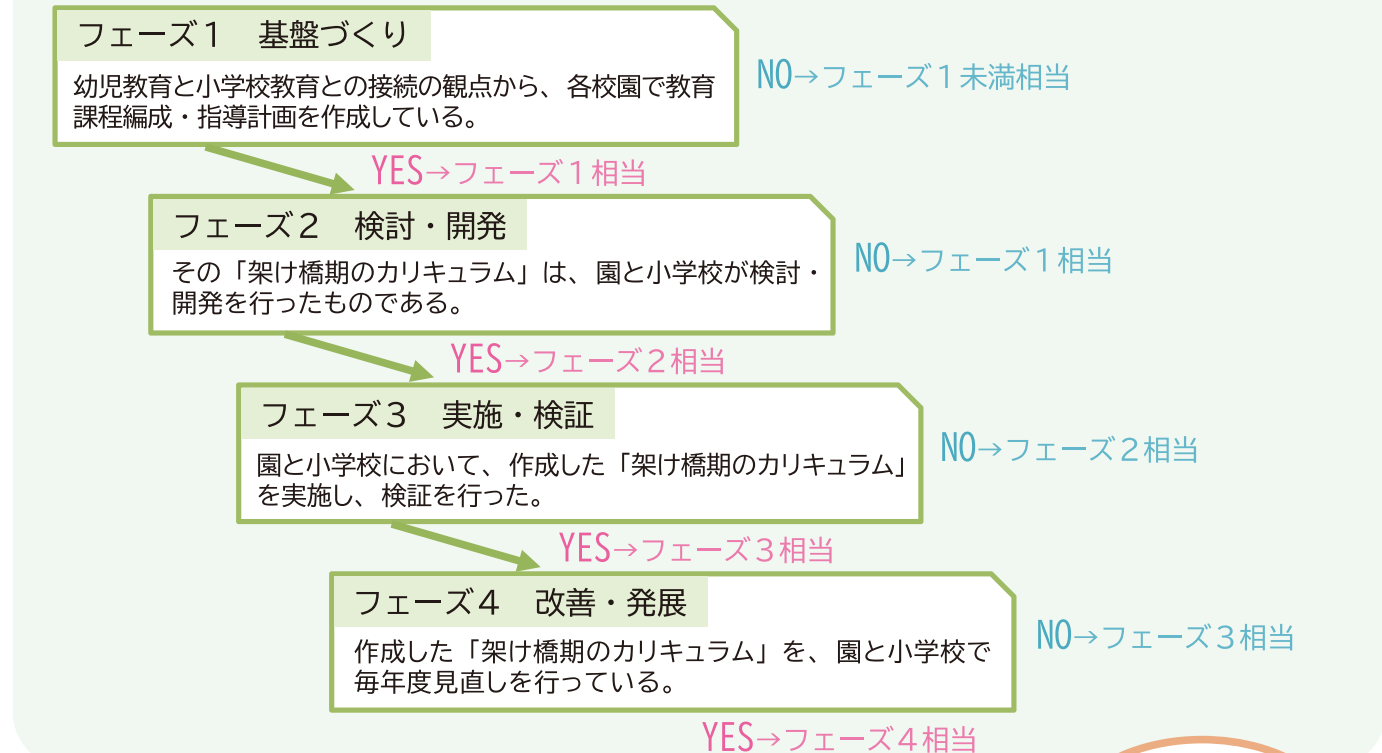
「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「保育所保育指針解説」等 参照

4 幼保小接続を進めるための現在のフェーズ(段階)は？

幼保小接続を進めるための体制や取組における段階を、フェーズ1「基盤づくり」からフェーズ4「改善・発展」の四つのフェーズで示しています。

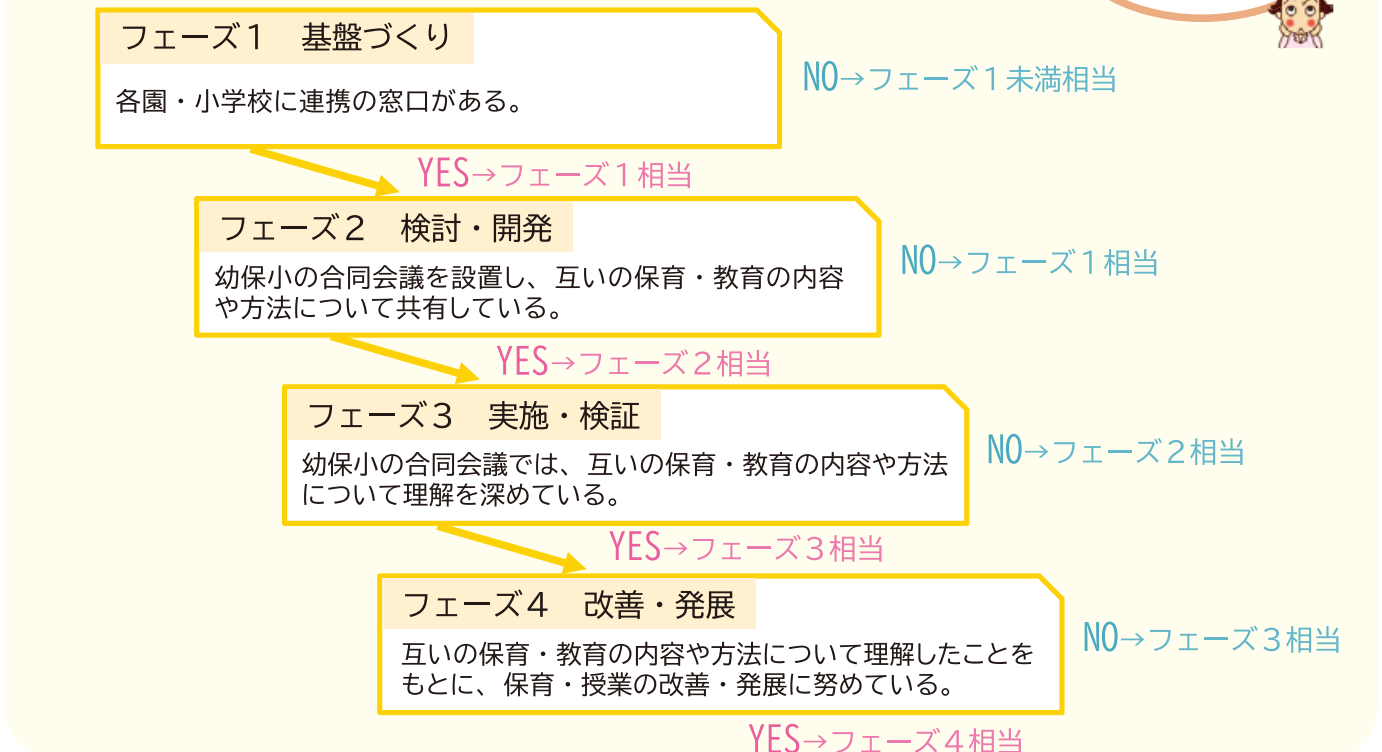
まずは、自園や自校が、現在、どのフェーズにあるのかについて、確認しましょう。現在の状況を把握することで、次のフェーズに向かうための手掛かりを得ることができます。校区の実態に応じ、行きつ戻りつしながら発展させていきましょう。

「架け橋期のカリキュラム」の改善・発展を目指しましょう！



保育・授業の改善・発展に努めましょう！

合同会議が、小学校へ入学する児童の引き継ぎのみになっていませんか？



「架け橋期」をつなぐ四つの「語る」が大切です

架け橋期のカリキュラムの編成・実施

カリキュラムの検証・改善を通じた保育・授業の質の向上

「架け橋期」の学びをつなぐために、「期待する子ども像を語る」、「実践を振り返り語る」、「参観した子どもの姿から語る」、「カリキュラムを語る」の四つの「語る」を大切にしながら取組を進めましょう。子どもを中心に据え、人と人とのつながりを大切に、「架け橋期のカリキュラム」の検証・改善を通して、保育・授業の質の向上を目指していきましょう。



もっと知りたい！幼保小接続に関する参考資料



【文部科学省国立教育政策研究所】
接続期カリキュラムの作成のポイント等がまとめられています。



【滋賀県教育委員会】
これまでの研究指定校園における取組のまとめを掲載しています。



【滋賀県総合教育センター】
幼保小連携・接続に関する研究の成果物を掲載しています。

Point

「幼保小架け橋ガイドブック 『架け橋期のカリキュラムを作成しよう！』」によせて
福井大学教職大学院 准教授 岸野 麻衣 氏

「架け橋期」のカリキュラム開発というと、5歳児担任と1年生担任の仕事だと認識されることもあるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。

幼児期に培いたい資質・能力の三つの柱として、

- ・「知識及び技能の基礎」（豊かな体験を通じて、五感を通してたくさんを感じたり、さまざまなことに気付いたり、分かたり、できるようになったりすること）
 - ・「思考力、判断力、表現力等の基礎」（自分自身で試したり、工夫したりしながら、さまざまに考え、表現していくこと）
 - ・「学びに向かう力、人間性等」（心を動かし、やってみようとして挑戦し、諦めずに粘り強くやり遂げ、よりよい生活を営もうとしていくこと）
- が、挙げられています。

幼児期に培われたこのような育ちを小学校以降により良くつないでいくことが「架け橋期のカリキュラム開発」です。「架け橋期」としては一般的に5歳児から1年生の2年間とされていますが、4歳までにおいても、子どもたちにこうした資質・能力を培っていくことは欠かせません。2年生以降においても、生きて働く知識及び技能、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等を培っていくことが求められます。その意味で、「架け橋期のカリキュラム開発」をきっかけに、園・学校のすべての先生方で、今一度、保育・授業を問い直し、資質・能力の育成に向けて質を高めていくことが求められているといえます。そしてそれには、私たち大人もまた、施設類型や校種を越えて協働することで、より良い保育や授業に向かい、自らの心を動かし、粘り強く挑戦し、試し工夫しながら考え、さまざまに気づき、理解を深めていくことが求められます。

この冊子で示したカリキュラムの枠を所与の物として従属するのではなく、これを元にしながらかつ自分で試行錯誤し、改良しながら、新たな価値を共に創造していくことができると期待しています。

